

科目名	弦楽演奏研究 I～IV [院]	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	2	年次	1,2

＝授業科目の目標＝

なぜ楽器を演奏するのか。音楽は何を表現するか。といった自分自身・音楽・社会それぞれのかかわりあいについて考え、日常的な修練の意義を見出だす。

演奏というジャンルを、平面的な情報（楽譜）から時間軸をベースとした多角的芸術に昇華させるという観点から意識をあらため、見直す。

＝履修の条件と学習の方法＝

レッスンにて与えられる課題はもちろんのこと、多くの文献や資料に接して見聞を広め、特に著名な演奏家のコンサートに足を運び、演奏とは何かという観点で、一流演奏家の表現力を学ぶ。

修士演奏により、研究や試験の成果を発表する。

＝授業内容＝

(1年次)

1期 基礎的な訓練は欠かさず行い、同時に今まで不得意としてきたジャンルにも目を向け、レパートリーをふやすことにつとめる。

また、古今東西の演奏家の演奏（実演を含む）を鑑賞し、見聞を広めながら、表現力を高める。(その1)

2期 基礎的な訓練は欠かさず行い、同時に今まで不得意としてきたジャンルにも目を向け、レパートリーをふやすことにつとめる。

また、古今東西の演奏家の演奏（実演を含む）を鑑賞し、見聞を広めながら、表現力を高める。(その2)

(2年次)

3期 修士にむけて楽曲演奏の完成度を高める。社会参加した時、あらゆるジャンルの音楽に対応できるように、演奏シュミレーションを実施し、演奏者と聴衆のコミュニケーションのありかたを実感する。即興（バロックにおける装飾的奏方法など）・和声分析・多様なフレージングなどを多角的に研究する。

録音や映像などを鑑賞しながら過去の遺産を認識し、現代における演奏のありかたとの違いを感じたり、これからの新しい時代にふさわしい演奏様式を創造する。(その1)

4期 修士にむけて楽曲演奏の完成度を高める。社会参加した時、あらゆるジャンルの音楽に対応できるように、演奏シュミレーションを実施し、演奏者と聴衆のコミュニケーションのありかたを実感する。即興（バロックにおける装飾的奏方法など）・和声分析・多様なフレージングなどを多角的に研究する。

録音や映像などを鑑賞しながら過去の遺産を認識し、現代における演奏のありかたとの違いを感じたり、これからの新しい時代にふさわしい演奏様式を創造する。(その2)

＝成績評価の方法と評価の基準＝

修士試験において、定められた時間内に、自分が学生時代に学んだことの集大成を演奏で表現する。

受験者の評価は技術面のみならず、日頃の様々な演奏活動への積極性や、時には院生としてのリーダーシップの発揮し具合なども視野に入れ、社会の一員として（音楽以外の分野でも）しっかり自分の存在をアピールできているかどうかの判断を加味した上で採点する。

＝その他＝

特になし